

川崎市長賞

手術をしてわかったこと

栗木台小学校 6年生 羽田 蒼彩

私は、四年生のときに手術をしたことがあります。大きな手術ではありませんでしたが、入院して手術をすると聞いてすごくびっくりしたし、すごく不安になりました。でも色々な人が応援してくれたり、はげましてくれたからがんばることができました。そのとき、「私は一人じゃない、私の周りには応援してくれる人がたくさんいる」と初めて気づきました。

手術する、と決まった日から入院の準備のためにおくれて学校に行ったり早退をくり返していました。病院に行くたびに手術する日が近づいてくると感じ、どんどん不安になっていきました。

入院当日、私は学校で給食を食べてから行くことになりました。帰る時間になり、お母さんが迎えに来て教室を出ようとした時、クラスのみんなと先生が私に応援メッセージをわたしてくれました。そのメッセージは折りづるで作られており、「がんばってね」「おうえんしてるよ」といったメッセージがひとりひとり書かれていました。私は、その瞬間に涙が出そうなくらいうれしくなり、みんなすごく優しいんだと思い、手術をがんばろうと決断しました。

それでも、病院についたときは不安いっぱいでした。でも、お母さんやお父さん、そしてかんごしさんが「大丈夫だよ」「安心して」など色々な言葉をかけてくれて不安にならないようにしてくれました。だから、私は気持ちが落ち着き、少し不安がなくなりました。

手術当日、朝起きたときから不安でいっぱいでした。でも、手術室に入ってからは一瞬でした。それは全身麻酔をしたからです。あっという間に意識がなくなり目がさめたときはもう病室でした。その日は、頭や口がすごく痛くなったり、気持ちわるくもなりました。でもお母さんとお父さんがずっとそばにいてくれたから心強かったです。お母さんとお父さんが帰ったあとは、一人で本を読んだり、ゲームをしていました。すると、かんごしさんが「何やってるの？面白そうだね」と声をかけてきてくれて、一緒に遊んでくれました。夜も一人でねることが怖かったですが、かんごしさんがそばにいてくれたから安心してねることができました。

手術が終わって退院した日、少し学校に顔をだしました。数日ぶりだったから少しドキドキしました。でもみんなは、私を見て喜んでくれたり、いっぱい話しかけてくれました。この時、自分は本当にみんなに支えられてるんだなと強く感じました。

私は、まだ自分の夢は見つかってません。今ははっきりとした夢はもってないですが、一つだけ分かっていることがあります。それは、私を支えてくれた、クラスのみんな、先生、友達、お母さん、お父さん、かんごしさんのように人を支えられ

る人になりたい、色々な人を元気づけたり、勇気づけたりして支えられる人になりたいと思っています。将来の自分を探して、夢を見つけることができるようにがんばっていきたいです。